

# 市民のチカラ

市内で活躍する  
さまざまな団体をご紹介します

## 月窓寺こども会

5月6日のこども会では、境内で毎年恒例のタケノコ掘りが行われました



## 地域に開かれたお寺で 子どもたちのふれあいを

吉祥寺駅北口駅前から続くサンロード商店街に隣接する月窓寺。まちのにぎわいから境内に一歩足を踏み入れると、ゆったりとした時間が流れているのを感じます。月窓寺は、現在の井の頭池の東側にあったとされる東岸寺を前身として、万治2（1659）年の吉祥寺村の開村とともに現在の場所に移って開かれた歴史あるお寺です。仏事だけでなく、古くから地域の人々とふれあう活動にも力を入れ、昭和51（1976）年から坐禅会や合気道、茶道、書道、太極拳など、誰でも参加できる「教化活動」を続けており、今

「広く告知をしてきたわけではなく、いわば口コミで広まったこども会も47年がたち、今では親子3世代にわたって参加する人もいます。いろいろなことが起こる混沌とした世の中ですが、子どもたちの心を育むような活動をこれからも続けていきたいですね」と村尾住職。月窓寺こども会は、子どもたちにとって家とも学校とも違うふれあいの場になっているようです。

「月替わりの活動では、1月はかるた取り、7月は七夕など、季節ごとの行事を取り入れています。コロナ禍の前までは、子どもたちが自分で野菜を切り、飯ごうでお米を炊いて行うカ

レー作りも大人気でした」と28世住職の村尾泰隆さんは言います。取材当日は、吉祥閣裏の竹林でタケノコ掘りを体験。けががないように大人たちが見守る中、くわでタケノコを傷つけないよう地面をザクリ。「くわが重い!」「タケノコが想像以上に大きい」など、子どもたちのにぎやかな声竹林に響きます。続いて、そびえ立つ竹をみんなで切り倒し、のこぎりで切って加工。「筆立てには大き過ぎるかな」「花瓶にいいかも」など、思い思いに用途を考えていました。土と竹に触れる子どもたちはみんな生き生きとしています。

「月替わりの活動では、1月はかるた取り、7月は七夕など、季節ごとの行事を取り入れています。コロナ禍の前までは、子どもたちが自分で野菜を切り、飯ごうでお米を炊いて行うカ

### 月窓寺こども会

こども会の会員は現在約50名。開催は毎月第1土曜日の午後1時～4時。参加希望者は月窓寺吉祥閣（受付）にお越しください。参加費は無料ですが、100円程度をお持ち寄りいただき、市民社会福祉協議会の「歳末たすけあい・地域福祉活動募金」に寄付しています。



本堂での坐禅の様子



月窓寺28世住職の村尾泰隆さん